

花と緑の銀行だより

179号 2011.5



ワサビ／立山町

目次	・花と緑の提言	2	・技術講座	6
	・市町村の事業紹介	3	・この人あり	7
	・活動事例	4	・お知らせ	7
	・緑づくりコーナー	5		



富山市の花と緑の推進事業について

富山市長 森 雅志

富山市は、県の中央部に位置する県庁所在地であり、平成17年4月の富山地区7市町村の合併により、東に、3000メートル級の雄大な北アルプス・立山連峰を望み、北は「海の幸の宝庫」富山湾に面する水と緑に恵まれた自然豊かな都市となり、さらに、古くから「くすりのまち」として、全国にその名が知られるとともに、長い歳月に育まれてきた「おわら」をはじめとする多様な伝統・文化も併せ持つ日本海側有数の中核都市となりました。

合併して6年が経過した現在、地方銀行頭取やグリーンキーパーの交流が活発になり、約340名の皆様が市内各地で緑化活動に努めています。そして平成21年、22年と連続して全国花のまちづくりコンクールに入賞する団体ができるなど、うれしい報告が続いているところです。

さて、本市は『人・まち・自然が調和する活力都市とやま』を実現するために、「ひとが輝き安心して暮らせるまち」、「すべてにやさしい安全なまち」、「都市と自然が調和した潤いが実感できるまち」、「個性と創造性に満ちた活力あふれるまち」、「新しい富山を創る協働のまち」の5つのまちづくりの目標を設定しています。その中で、花と緑の推進事業としてコンパクトなまちづくりの単位となる生活圏ごとに、地域の顔となる緑の拠点を配置することとしています。

こうした中、平成19年度より市中心部の道路沿線に四季折々の草花を植えたハンギングバスケットを設置し、花と緑で街に彩を添え、都市景観の向上を図る取り組みを実施しています。

現在、路面電車沿線などに177箇所及び、市庁舎壁面やライトレール富山駅北電停などに56箇所のハンギングバスケットを設置しており、これによりJR富山駅から中心市街地を結ぶ、花飾りのリングを形作ることができました。これをフラワーリング事業と名づけ、都市緑化の主要な柱として位置づけているところです。

また一部のハンギングバスケットは、普及型のバスケットを利用して年2回、製作講習会を開催し、地方銀行頭取、グリーンキーパーの皆様がバスケットへの植栽作業に参加していただいています。頭取、グリーンキーパーが、実際に植栽したハンギングバスケットがライトレール富山駅北電停に飾られています。ハンギングバスケット一つずつに、植栽にご協力いただいた頭取、グリーンキーパーの名札が付いていますので、是非一度見に来ていただければ幸いです。

今後とも、積雪時にも草花を眺められることや、狭い空間や高所、壁面などでも自由に設置できることなどのハンギングバスケットの魅力を発信していきたいと考えております。

また、ハンギングバスケットによる美しい都市景観が市民の皆様への自信と誇りにつながるよう、植栽には富山市らしさを演出するため、草花苗の選定などの植栽の企画を工夫するとともに、草花のボリュームと鮮やかな花色が長く続くようにハンギングバスケットの管理には細心の注意を払っていく所存です。

ハンギングバスケットによる草花の輪が広がることを期待しています。

氷見市の活動紹介

花と緑の銀行氷見支店

都市計画課・花みどり推進班 川合幸雄

1. はじめに

氷見市では、平成14年から「四季を彩る花とみどりの庭園都市づくり」をまちづくりの重点施策として、市民ひとりひとりが花や緑を通して、自然環境、生活環境、まちの景観などに関心を持ち、花や緑が溢れ、もてなしの心に満ちた「花と緑のまちづくり」をめざしています。

2. 氷見市の緑化事業

市では、海浜植物園を緑化推進拠点施設として、植物園を会場に花とみどりのイベントを開催するとともに、植物園の施設を活用し市民の園芸技術等の向上や緑化推進を目的に講習会を開催しています。

花と緑の銀行氷見支店は頭取25名、グリーンキーパー103名の構成でさまざまな緑化運動を実施しております。

活動内容としましては、市内一般団体、福祉施設、公共施設等への花苗の配布等を基本に、地域花壇の花苗の植え込みや管理などの活動を行っております。

3. 地域の花づくり

市内の学校や保育園では緑化活動が活発に行われ、児童が育てた花鉢の配布や里山づくり地域住民や保護者との協働による花壇づくりなど、特に花壇づくりには、秀でたものが多くあり、全国レベルでも高い評価を得ており、優秀な花壇活動が行われています。花壇づくりは、子供たちの情操教育と地域の人とのつながりの場であり、氷見市の花づくりの原点となっているこ

とから、花壇の新規、改良助成や指導を行い、より愛着を持ってもらうため、配置設計から造成作業までを、児童や保護者、地域住民に委ねています。市ではこれからも花と緑に包まれたやすらぎとうるおいのある町を目指して、市民、行政がひとつとなって緑化運動を進めていきたいと考えております。



速川地区（花壇づくり講義・寄せ植え教室）



加納地区（花壇づくり教室）



「一遇の灯となれ町に植えし花」 を目指して

魚津市経田地区頭取 横田トミエ

私達経田地区グリーンキーパーは、置県100年記念花壇を核に、標題に向かって活動しています。

花壇づくりは、土作りから始まると言われています。平成元年、私が地区役員となり、環境問題に取り組み、生ごみ堆肥化を考えていた頃、岐阜県可児市の「EMボカシ」と出会いました。早速「ボカシ」を使った生ごみを堆肥化し、その土を利用して畑・花壇・プランターで花や野菜を作りました。それを、琉球大学教授の比嘉照夫先生（全国花のまちコンクール審査委員長）が見に来てくださり、「微生物の有機栽培で町中爽やかで、気持ちが良いね。」と言われ感激しました。それからは、県内だけでなく県外からも多数視察に来られ、NHKの番組やエコピュア雑誌等のマスコミにも取り上げて頂きました。

残念ながら現在は、会員の多忙もあり、業者の「ボカシ」を購入し、有機堆肥を使ったりしながら花壇作りをしています。また、多くの会員がボランティア活動に参加する等で「ステップアップ研修」を受講する時間も無く、花づくりの知識不足に悩みながら我流により活動しています。

会員は高齢化していますが、公民館・老人会等の各種団体と連携をとり、花の持つ香り・美しさ・華やかさ・優しさといった花の特性に触れ、皆さん、また自分も楽しみながら、花壇づくり、地域づくりをしていきたいと思っています。



活動の様子1



活動の様子2

花壇の土を拝見

富山市大久保南部ちとせ会花壇…花壇の土づくりの参考に

普及研修部 提 義 房

花づくりに土づくりが重要であるということはよく耳にします。土づくりに堆肥の施用というのはよくありますが、それ以外に何をどのように改良しているのかを目にすることはまれです。このコーナーでは現場の花壇の土層の状態と物理性（固体、水、空気の割合）、化学性（pH）について概観し、どのように改良すれば良いかについて検討していきたいと思っています。

1. 花壇の位置

大久保南部ちとせ会が管理する花壇は、旧大沢野町の国道41号線拡幅時に遊休地になった水田底地に土を搬入して造成したもので、20年近くが経過しているとのことである。

2. 土の状態

花壇は国道から見えるような相似した三段の台形で、段差は30cm程度あり、その一段目と二段目に穴を掘り、断面の様子を調査した（写真1、写真2）。



写真1 花壇形状



写真2 土層の状態

①土層

一段目の特徴を見ると、作土深は12cmと浅いものの25cmまでの2層目も柔らかく根の伸長に支障はない。それぞれの土層は、粒状、塊状の構造が発達し、通気性や排水性が確保され、土の色も花が好む酸化的な色合いを帯びている。特に作土層の粒状構造の発達が著しく（写真3）、上を歩くとスポンジを踏んでいるような感覚になる。



写真3 粒状構造

25～32cmに根も伸長できないような非常に堅い層があり、植物根もその層以下には見られない。深根性の花を栽植するにはせめて30cmの耕土があればなあと思いますが、それ以深が礫層なので致し方のないところでしょうか。

二段目は植物根が深さ37cmまで見られ、柔らかい土層も65cm以深まであり、根の伸長に障害はない。印象的なのは土層の深くまで粒状の構造があり、土の色も好適な条件にあることである。

三段目は土層が90cmくらいで、宿根草があったので調査は出来なかったが、高木を栽植しても支障がないように思われた。

いずれの段も深い層の土まで有機物（腐植）が多いのが特徴的である。

②物理性（土の固体、水、空気）

花壇では固体50%、水25%、空気25%、孔隙率50%（水と空気の合計、水と空気は入れ換わるため）程度を目標にするが、調査日前3日間は雨や雪で当日の融雪もあり多分に推測を含むが、総じてこの目標に近いものになっている。空気率が低い傾向であるが孔隙率が60%前後あることから保水性や通気性は確保されているようである。特徴的なのは一段目の作土層で、孔隙率75%程度と非常に大きく、単位容積あたりの重さも三層目の半分以下と有機物そのものと言った感じがかった。10a当たり5トン相当の牛糞堆肥を10数年施用してきた結果である。

③化学性（pH）

pHは一、二段目とも各土層で大きな変化はなく、一段目が6.2前後、二段目が6.5前後である。多くの草花が5.5～6.5の弱酸性が適していることから適正な水準にある。酸性、アルカリ性を好む花にはスポット的に資材を加えてやれば十分であろう。

3. おわりに

この花壇の土は花を作る際に、土層の状態や物理・化学性に障害になるような要因は見当たらない。一段目の耕土が少し浅いことくらいで、長年に渡る地道な土づくりの成果が見られる花壇である。

調査は県農業研究所土壤・環境保全課の皆さんのお世話になりました。記して謝意を表したいと思います。

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン

ムラサキツユクサ

職藝学院

教授 渡邊美保子

朝のお天道様の光が一日ごとにまぶしくなってくる5月の半ばになると、宿根草のお庭では、まんまとしたコマルハナバチが忙しく飛び回ります。その羽音が聞こえてくるとムラサキツユクサが咲き始めたことを教えてくれます。



①一本のおしべには約60本の毛がある。花柄が垂れ下がっているのは咲き終わった花

ムラサキツユクサは、日本の草原で見られるツユクサに花は似ていますが、草丈が50~60cmほどになる北米原産の宿根草です。3枚の花びらの中央に6本のおしべがあり、それぞれのおしべにはたくさんの毛が生えています。毛の色は花びらの色と似ているのでよく見ないと気づきません。朝の光できらきら光ります。花の命は短くて朝日を浴びて花を開き、午後には閉じてしまう半日花です。一本の花茎のてっぺんにたくさんのつぼみをつけ、そのつぼみたちを見守るように2枚の長くとがった葉が万歳するように天に向かって広がります。咲き終わった花は緑色の顎片が包み込み、花を支えていた長い花柄は地面に向かって垂れ下がります(写真①)。

ムラサキツユクサは、明るい半日陰から日当たりを好み、乾燥にとっても強い宿根草です。代表的な花の色は紫色ですが、赤紫や、ラベンダーブルー、白などの品種もあります(写真②)。4月中旬ごろから細い葉っぱが地面から集団で出てきて、5月の連休の頃までには地面を覆ってくれるので雑草が入り込みません。お勧めの組み合わせは、ヘメロカリス、ギボウシなどです。



②いろいろな花色のムラサキツユクサ 5月中旬
職藝学院宿根草実験ガーデン

また、いろいろな花の色を組み合わせ、群落をつくるように植栽しますと、自然に交配してとんでもないところから芽がでてきます。今まで花壇になかった花色のムラサキツユクサを気長に作出することもできます(写真③)。花よりも葉のほうが目立ち、朝の光をいとおしむようにちらりほらりと咲き進みますので、主役になれる花ではありませんが、1ヶ月ほど咲いてくれます。6月下旬になると密生していた花茎が、ぱたっと倒れ、株が割れたようになりますので、根元から切り戻しますと、再び地面から新しい葉が茂ってきます。



③2002年に植栽した3種類の花色から自然交配して生まれたコバルトブルー色の花



子供たちと一緒に花いっぱい運動

花と緑の銀行南砺支店
城端支所グリーンキーパー 須川 伸夫

花いっぱい運動として野下児童会では城端小学校前の道路にプランターを54個設置しています。

小学校前の道路をフラワー通りとして毎年、春（5月）にサルビア、インパチェンス、マリーゴールド、ペコニア、日々草をこども達と親子で植栽してもらっています。プランターは30cm×50cmの大きさの物ですが、個々のプランターには子ども一人一人の名前が貼って有り、草むしり・水管理はその子どもが責任をもってしています。その苦勞の甲斐があってプランターの花が満開に咲いている通りを朝・夕に元気にあいさつをして登下校しています。小学校前通りは1000m程ですが、春の曳山祭・秋のむぎや祭に多くの観光客が訪れる通りでもあり、その時期に花が満開になるよう、追肥や間引きをして調整しています。その指導にGKとして助言しておりますが、むぎや祭のころにきれいに咲きそろい満開になった時には、地区住民や観光客から「きれいだね。」と言葉をかけてもらうと毎年、取り組んでよかったと感じています。

また、花とみどりの少年団でも校門前から玄関にかけて樽コンテナやプランターを設置したり、学校花壇を整備することで子どもたちに花の魅力を感じてもらい、花みどりフェアの寄せ植えコンテストなどにも積極的に応募しました。

今後も「子どもたちを中心にグリーンキーパーが助言や補佐する形で「花とみどりの活動」を推進していきたいと思っています。



〈お知らせ〉

平成23年度花と緑のコンクール実施予定

コンクール名	応募締切※1	一次審査(予選)	審査日	摘要
花のまちづくりコンクール				
◎個人花壇	7月6日(水)	7月11日(月)	7月27日(水)	
◎幼稚園・保育所花壇	7月13日(水)	各支店(市町村)で実施	7月21日(木)～22日(金)	
◎学校花壇	7月20日(水)	各支店(市町村)で実施	7月28日(木)～29日(金)	
◎花の道	7月27日(水)	各支店(市町村)で実施	8月4日(木)～5日(金)	
◎一般花壇	8月3日(水)	各支店(市町村)で実施	8月11日(木)～12日(金)	
花と緑の標語コンクール	7月29日(金)	9月上旬	9月下旬	
花と緑のポスター原画コンクール	9月9日(金)	審査日の午前中	9月下旬	

※1 各支店(市町村)で予選を実施する部門は、各支店に締切日を確認ください。

花しょうぶ祭りの開催について

県民公園頼成の森に親しんでいただくことを目的に、今年も6月下旬の10日間、「第26回頼成の森花しょうぶ祭り」が開催されます。開催期間等が決定され次第、詳細をホームページ等でお知らせ致します。

表紙写真：ワサビ（アブラナ科、立山町）
裏表紙写真：アケビ（アケビ科、富山市）



アケビ／富山市



花と緑の銀行だより 179号

発行日 平成23年5月

編集発行 財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org>

県民公園頼成の森

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>

再生紙を使用しています。